

日蓮大聖人御書全集

うえのどのごへんじ

上野殿御返事

すいかにしんしょう

(水火一信抄)

新版
1871
〜
1872

うえのどのごへんじ すいかにしんしろう

上野殿御返事（水火二信抄）

けんじ ねん がつ にち さい なんじようときみつ

建治 4 年 ('78) 2 月 25 日 57 歳 南条時光

いものかしら 串 柿 や ごめ くり 筍 酔 筒 た

蹲 鴟 ・ くしがき ・ 焼き米 ・ 栗 ・ たかなな ・ すづつ、 給び

そらら お

候 了 わんぬ。

がっし あいくだいおう もう おう いちえんぶだいしぶん いち

月氏に阿育大王と申す王おわしき。一閻浮提四分の一を

掌 握 りゆうおう 従 あめ こころ

たなごころににぎり、竜王をしたがえて雨を心にまかせ、

きじん 召 使 たま はじ あくおう のち

鬼神をめしつかい給いき。始めは悪王なりしかども、後に

ぶつぼう き ろくまんにん そう ひび くよう はちまんしせん いし

は仏法に帰し、六万人の僧を日々に供養し、八万四千の石の

とう 建 たも だいおう かこ 尋 ほとけ ざいせ

塔をたて給う。この大王の過去をたずぬれば、仏の在世に

とくしやうどうじ

むしやうどうじ

ふたり

幼

ひと

つち

もちい

徳勝童子・無勝童子とて二人のおさなき人あり。土の餅を

ほとけ

くよう

たま

いっぴやくねん

うち

だいおう

う

仏に供養し給いて、一百年の内に大王と生まれたり。

ほとけ

ほけきよう

対

そらら

仏はいみじといえども、法華経にたいしまいらせ候え

ほたるび

にちがつ

しやうれつ

てん

ち

こうげ

ほとけ

くよう

ば、萤火と日月との勝劣、天と地との高下なり。仏を供養

くどく

況

ほけきよう

つち

餅

してかかる功德あり。いおうや法華経をや。土のもちいを

進

ふしぎ

況

種々

果もの

まいらせてかかる不思議あり。いおうや、すずのくだ物を

飢 渴

飢

くに

や。かれはけかちならず、いまはうえたる国なり。これを

思

しやかぶつ

たほうぶつ

じゅうらせつによ

守

もつておもうに、釈迦仏・多宝仏・十羅刹女、いかでかまぼ

たま

らせ給わざるべき。

そもそも、今の時、法華経を信ずる人あり。あるいは火の

しん ひと いま とき ほけきょう しん ひと

ごとく信ずる人もあり、あるいは水のごとく信ずる人もあり。

ちようもん とき 燃 思 遠

聴聞する時はもえたつばかりおもえどもとおざかりぬれば

捨 ころろ みず もう 退 退 ころろ

すつる心あり。水のごとくと申すは、いつもたいせず信ず

とき 常 退 訪 たま

るなり。これは、いかなる時も、つねはたいせずとわせ給え

みず しん たま 尊

ば、水のごとく信ぜさせ給えるか。とうとし、とうとし。

真 家 患 そうろう

まことやらん、いえの内にわずらいの候なるは。よも

きじん 所為 そうら じゆう 羅 刹 によ しんじん 分 際

鬼神のそいには候わじ。十らせち女の、信心のぶんざいを

おんころろ そうろう きじん ほけきょう ぎようじや

御心みぞ候らん。まことの鬼神ならば、法華経の行者を

悩

頭

破

思

きじん

そうろう

なやましてこうべわれんとおもひ鬼神の候べきか。また

しやかぶつ

ほけきよう

おん

虚

ごと

そうろう

深

思

釈迦仏・法華経の御そら事の候べきかと、ふかくおぼし

そうら

きようきようきんげん

めし候え。恐々謹言。

にがつにじゆうごにち

二月二十五日

にちれん

日蓮

かおう

花押

ごへん

御返事